

FUJIFILM

株主の皆様へ

Vol. 81  
September 2011

FUJIFILM  
NEWS

富士フイルムホールディングス株式会社

株主名簿管理人 事務取扱所

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

〒168-0063

東京都杉並区和泉2丁目8番4号

電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)

トピックス

# 販売好調!!

## 高級コンパクトデジタルカメラ 「FinePix X100」

平成23年3月に発売した高級コンパクトデジタルカメラ「FinePix X100」が、品薄が続くほど好評。年間販売目標10万台の早期達成を目指す。

デジタルカメラ事業において、平成21年度は新興国を中心にエントリーモデルの販売が好調で、販売台数の増加とともにFUJIFILMブランドを広く浸透させることに貢献しました。平成22年度は独自技術を活かした中高級モデルの販売が好調に推移し、販売単価の上昇による売上拡大と、さら



FINEPIX X100

なるブランド力の向上に寄与しました。高付加価値商品のフラッグシップモデル「FinePix X100」は、一眼レフを凌駕する高画質で、発売以来品薄が続くほどの人気です。平成23年度も引き続き中高級モデルの販売を強化し、デジタルカメラ全体の販売台数は過去最高の1,400万台を目指します。

### 「FinePix X100」の特長

#### 世界初のハイブリッドビューファインダー

光学ファインダーと電子ビューファインダーを自在に切り換えられるハイブリッドビューファインダーが、「ファインダーを覗いて撮る」というカメラ本来の楽しみを提供。

#### 新開発フジノン23mm F2レンズ搭載

高画質と薄型化を高いレベルで両立したレンズ固定式・単焦点の新開発レンズ。シャープな解像感、美しい色再現性など、バランスのとれた高品位な描写性能を発揮。

#### FinePix史上最高峰の高画質を実現

フジノンレンズの性能を最大限引き出すカスタムCMOSセンサーを専用設計。新EXRプロセッサとの組み合わせで、一眼レフを凌ぐ、FinePix史上最高峰の画質を実現。

#### 高品位なデザイン

トップカバーにマグネシウムダイキャストを採用し、ダイヤルやリング類は金属からの削り出し工法で加工することで、「往年のカメラらしいたすまい」をもった精密なフォルムを実現。

## かけがえのない思い出は、流されない

～東日本大震災復興支援活動

富士フィルムでは、当社ならではの支援の1つとして、津波により海水や泥で汚れた写真プリントやアルバムの洗



浄に関する技術指導や資材提供を行う「写真救済プロジェクト」を行っています。専用ウェブサイト立ち上げたほか、専門知識を身に付けた社員約30名が被災地70カ所以上において技術指導を続けてきました。

さらに、写真が日々劣化していく中、膨大な量の写真を一枚でも多く洗浄するため、社員、OB・OGによる「写真洗浄ボランティア活動」も実施しました。6月25日から約1カ月間実施したこの活動には、延べ1,500人以上が参加し、当初目標の10万枚をはるかに上回る17万枚を洗浄し、被災自治体にお届けしました。今後も救済活動を地道に続けていくため、被災者やボランティアの相談窓口となる地元の写真店・写真館との連携を深めていきます。

【FUJIFILM NEWS Vol. 81について】

富士フィルムホールディングスでは平成23年度より、株主通信「FUJIFILM NEWS」を従来の中間期末、期末の年2回に加え、第1、第3四半期末にも、今回のようなダイジェスト版にてお届けいたします。

◀ここから開いてください

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成23年度第1四半期(平成23年4月1日～6月30日)の当社の連結売上高は5,301億円、営業利益は290億円、当社株主帰属四半期純利益は145億円となりました。

平成23年度通期連結業績は前年度に比べて為替の円高影響(40億円)、銀・アルミなどの原材料高影響(240億円)、震災影響(250億円)を合わせた530億円の営業利益へのマイナス影響を見込んでいます。このような厳しい事業環境ではありますが、当社は、原材料高に対する製品値上げなどを含む売上挽回策、および新製品の拡販や新興国市場での販売強化などの成長戦略を強力に推進することにより、営業利益で前年度比17.3%増の1,600億円を目指しています。当年度からは、平成21年度から2年間にわたる構造改革により構築した強靱な企業体質を基盤に、売上の成長にこだわり、世界市場を舞台に成長戦略を本格的に推進していきます。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

平成23年9月  
代表取締役社長 CEO

古森重隆



売上高 5,301 億円(前年同期比3.2%減)

(為替影響額を除いた前年同期比は0.6%減)

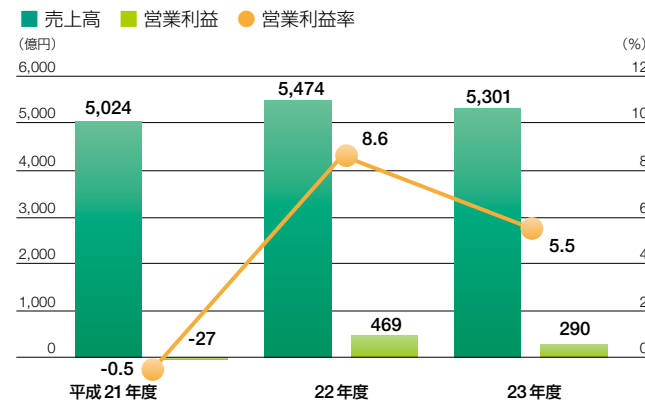
- ➕ 新商品投入や新興国などへの拡販施策を強化
- ➖ 為替の円高によるマイナス影響、震災による国内需要減

営業利益 290 億円(前年同期比38.1%減)

- ➖ 為替の円高によるマイナス影響、原材料価格の高騰

当社株主帰属四半期純利益 145 億円(前年同期比18.3%減)

## 第1四半期連結業績の推移



## 年間配当予想

第2四半期末：17円50銭  
期末：17円50銭  
合計：35円00銭